

園児と触れ合い30年

三川町の中高生によるボランティアサークル「来夢来人」が、「こころを育む総合フォーラム」(座長・鷲田清一 大阪大名誉教授)の「2020年度 子どもたちの『こころを育む活動』」の優秀賞に選ばれた。園児との交流や町内のイベントの手伝いなど、30年以上にわたって活動。地域に根差した取り組みなどが評価された。

三川・中高生奉仕サークル「来夢来人」

“こころを育む活動”全国優秀賞



を中心に計40人が所属し、中学卒業後、活動を続ける人も少なくない。新型コロナウイルスの感染拡大前は、町内の保育園・幼稚園を訪ねて園児と交流。現在は町子育て支援センターへの訪問、施設の清掃、町主催のイベント

絵本の読み聞かせを行う「来夢来人」のメンバー(奥)。施設を訪問し、子どもたちとの交流を続けている
＝三川町子育て交流施設「テオトル」



が好きなので楽しい。学校ではできない経験だと思」と話す。

事務局を務める町教育委員会の担当者によると、サークルは学年の枠を超えた仲間づくりの場としても機能しているという。活動を通じ、地域の人から感謝の言葉を掛けられることがあるといい、「部活動がある中、メンバーは自分の時間を使って足を運んでいる。こうした経験を大切にしたい」と話す。代表の庄内総合高1年片桐未夢さん(16)は「自分たちでできることを探し、行動していきたい」と意欲を語っている。

地域に根差した活動 評価

同フォーラムは、パナソニック教育財団(東京)が主催。思いやりや自立心など、心を育てる活動をする地域、団体を応援しようと、毎年賞を贈っている。本年度は全国から寄せられた148件の応募のうち、7団体が受賞対象に選ばれた。

来夢来人は1988(昭和63)年に発足。三川中の生徒

のサポートなどに当たっている。表彰では「地域への恩返し的心や、思いやりの心が育まれている」といった講評を受けた。

13日には、サークルのメンバー8人が、町子育て交流

施設「テオトル」内にある子ども準備。メッセージを添えて子どもたちにプレゼントした。いずれも三川中2年の長沢莉沙さん(13)は「子どもたちの笑顔を見ていると、うれしい気持ちになる」、

木内蘭さん(14)は「子ども

(鶴岡支社・川口御生)